

活動報告書
2025



未来につながる「最後の社会貢献」

貴方の「思い」を
のこす遺贈へ

貴方の「思い」をのこす遺贈へ

遺贈寄付サポートセンターからのご挨拶

日本財団 遺贈寄付サポートセンターは、2016年4月1日の設立から無事に10年の節目を迎えました。これもひとえに私共の活動を信頼し、遺贈寄付の尊い思いを託してくださった皆様のお陰と深く感謝申し上げます。

この10年で遺贈を含む遺言書の作成数は着実に伸びております。最近では「遺言書を書いたことで安心した」、「これからの人生をのびのびと楽しみたい」という前向きなお声や、遺贈寄付へ思いを託すことに深い満足感を覚える方も増えていると感じます。

これからも日本財団 遺贈寄付サポートセンターは、無料の相談窓口としてご相談者のお一人おひとりの思いに寄り添い、未来へつなぐ丁寧なお手伝いを続けてまいります。どうぞお気軽にご相談ください。

日本財団遺贈寄付サポートセンター 木下園子

2025年度 寄付実績

遺贈寄付

649,442,495 円<13件>

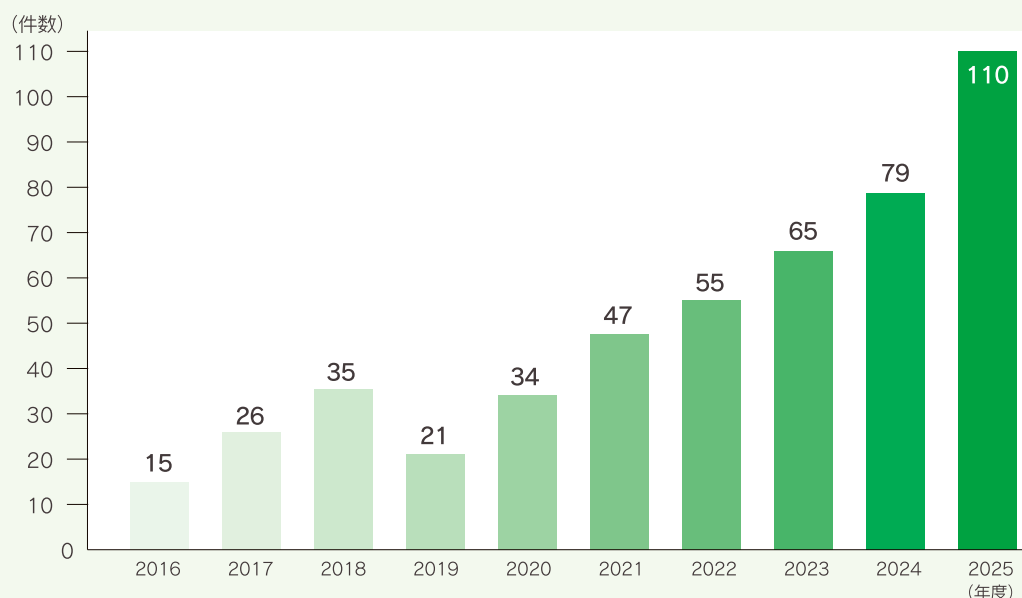
相続財産からの寄付

29,000,000 円<10件>

信託による寄付

22,097,372 円<4件>

遺言書 受領件数の 推移



活動のご報告

CONTENTS

事業実施報告

レポート1

子どもへの安全安心なスポーツ機会の提供…………… P.4

レポート2

スポーツ・アスリートの力を活用した災害支援…………… P.5

レポート3

プロバスケットボール選手による能登半島地震復興支援…………… P.6

レポート4

犯罪被害者等の子どもを対象とした奨学金…………… P.7

レポート5

スポーツ界横断の環境アクション・プロジェクト『HEROs PLEDGE』…………… P.8

レポート6

里親への研修提供及び社会的養護経験者の進学支援…………… P.9

その他の活動

① フリースクールの建築(麦の子会)…………… P.10

② 全国各地で19回におよぶ遺贈セミナーを開催しました…………… P.11

③ 共催イベント
「人生100年時代の社会貢献とWell-being」を開催しました…………… P.11

④ 第10回「ゆいごん川柳」結果発表…………… P.11

子どもへの安全安心な スポーツ機会の提供



運動は自己肯定感を向上させ、子どもたちの身体的・精神的発達に寄与します。しかし現在、気軽に運動できる公園などの場は減る傾向にあります。経済的格差が広がり、運動をする機会の格差も心配されます。そこで、アスリートによる社会貢献活動「HEROs」の一環として、障がいの有無や年齢・性別を問わず、誰もが参加できる全国各地のスポーツイベントに対して、トップアスリートを派遣することで協力をしています。

2025年度はオリンピック・パラリンピックの柔道金メダリスト2名による柔道教室やオリンピックのリレー銀メダリストによるかけっこ教室等を全国6カ所でのべ8,000人へ提供。「子どもの支援に」と寄付された伴場好徳様からの相続財産などが使われています。

事業担当者からの声

多くの子どもにとって体育の授業は貴重なスポーツの機会ですが、得意な子が得意なことを見せる場になりがちです。スポーツの純粋な楽しさに触れる場は外遊びと共に減り、個人に合う上達法を学ぶ機会は有料の教室に限られる傾向もあります。そんな機会を身体能力や経済状況によらずに提供することに寄付金を活用させていただいています。



特定事業部 HEROsチーム 青木透



本事業には、水野久榮様、寒河江幸男様、H様の遺贈寄付と、故 伴場好徳様のご遺志に沿ったB様、H様の相続寄付を活用させていただきました。

●実施団体名：(公財)日本財団

●予算総額：21,663,652円





スポーツ・アスリートの力を活用した災害支援

災害発生直後の緊急時にはアスリートたちが寄付やボランティアの募集を広く社会に呼びかけ、被災現場のニーズに応えます。現地での活動が可能になる復旧期や社会の関心が低下する復興期には、継続支援を呼びかけると同時に、被災地でアスリートとのスポーツ交流を通じた心のケアを実施するなど、時機に応じて必要な支援を提供しています。 能登半島地震を中心に岩手県大船渡市、愛媛県今治市・西条市の森林火災、九州地方の豪雨などで約500人のアスリートが支援に参加。

1,000人以上の子どもたちとの交流やフェーズ毎の支援で1万人以上の関係人口を創出しております。また、「次の災害」に備えてスポーツ団体の連携会議を行い、未然に防ぐ防災意識を高めてもらうためのスポーツ界による啓発活動などにも力を入れています。「時宜にかなった活動に」と〇様から託された財産を始め、多くの皆様から託された遺贈寄付が活動の原資です。

事業担当者からの声

災害からの復興には長い時間がかかり、フェーズごとに求められる支援も変化します。緊急時の支援の呼びかけから、復興期の子どもたちの心のケア、そして次の災害に備える防災啓発まで、アスリートの持つ発信力と求心力が被災地に希望を届けています。皆様からのご寄付を通じ、被災した皆様の心に寄り添う支援と、未来の命を守る活動を継続できることに深く感謝いたします。



特定事業部 HEROesチーム 神田卓哉



本事業には、山田郷子様、T様、I様、Y様、O様の遺贈寄付と、島田ひろみ様、M様、T様、A様の相続寄付を活用させていただきました。

●実施団体名：(公財)日本財団

●予算総額：82,896,850円



プロバスケットボール選手による 能登半島地震復興支援



能登半島地震復興支援活動の一環として、一般社団法人日本バスケットボール選手会が2025年6月に石川県輪島市を訪問しました。アスリートによる社会貢献活動「HEROs」プロジェクトの一環として、島田ひろみ様のご寄付を活用してこの活動を支援しています。HEROsアスリートの一人で選手会会長の田渡凌選手をはじめ13選手が支援活動を実施。小中高生にバスケの指導をしたほか、「輪島市民まつり」で市民と交流しました。姫路イーグレッツの木下風奏選手は「自分の力は微力ですが、地域の方にとっていつもの毎日とは少し違った楽しかった時間として思い出に残ってくれていたら」と振り返ります。

群馬クレインサンダーズの野本建吾選手も「被災地に行って、沢山のひととお話をするのが一番大事な事だと感じました」と話します。

事業担当者からの声

能登半島地震への支援が徐々に減る中で、13名のプロバスケットボール選手たちと子どもたちが一緒に体を動かし、笑顔で言葉を交わす非日常の楽しい時間は、能登地域の方々の心の復興に欠かせない活力となります。島田ひろみ様からのご寄付のおかげで、子どもたちにバスケットボールを通じた笑顔と活力を直接届けることができました。この温かいご支援を力に、今後も被災した皆様の心に寄り添う活動を継続いたします。



特定事業部 HEROsチーム 小関華奈



本事業には、島田ひろみ様の相続寄付を活用させていただきました。

- 実施団体名：(一社)日本バスケットボール選手会
- 予算総額：1,000,000円



犯罪被害者等の 子どもを対象とした奨学金

日本財団は、家族や本人が犯罪被害に遭った子どもたちを対象に、返済不要の「よりそい奨学金」を2017年から続け、延べ800人以上に支給しています。

困難な状況の中でも希望を失わず、ITエンジニアや介護士になるという自身の夢に向かって進学を目指すなど、高い意欲を感じる利用が目立ちます。利用しやすいよう、学業成績の条件はなく、他の奨学金制度とも併用できます。ただ、「よりそい奨学金」は学校教育法で定められた学校が対象で、それ以外の教育機関に通う場合は支給できませんでした。それでも様々な事情から「対象外の機関で学びたい」という子どもはいます。その思いを叶えるため、遺贈寄付で特別な奨学金を作り、制度の「狭間」をなくしました。学費の不安から進学を諦める子どもがいなくなるよう、これからも支えていきます。

事業担当者からの声

犯罪被害に遭われたご家庭では生活基盤が急に失われ、何の落ち度もない子どもたちの学習継続や進学が困難になるケースが多くあります。教育は子どもの社会的自立に直結しており、このような不利益を最小限にする奨学金は将来の大きな支えになると信じております。子どもが選んだ教育機関で学ぶことをご支援いただき、心より感謝申し上げます。



国内事業審査チーム 奨学金担当



本事業には、T様の遺贈寄付と、島田ひろみ様、S様の相続寄付を活用させていただきました。

●実施団体名：(公財)日本財団

●予算総額：1,260,000円



スポーツ界横断の環境アクション・プロジェクト『HEROs PLEDGE』

プラスチックごみ(プラごみ)による海洋汚染などが深刻さを増しています。残念ながらスポーツ界も大量のプラごみを出してきました。

スポーツ界全体で使い捨てプラごみ削減に取り組むのが「HEROs PLEDGE」です。2026年度末までに主要スポーツ興行で使い捨てプラごみ半減を目指しています。2026年1月にはスポーツ団体向けに実践的なガイドブックを作成し、応援グッズ・ノベルティの見直し、会場への給水機の設置、リユースやバイオ素材の食器への切り替え等を組織として進めていくためのポイントを発信。プラゴミを減らすソリューションを持つ企業とスポーツ団体・アスリートをつなぐ勉強会をシリーズ開催し、試合での実装につながった事例も出てきました。さらに、影響力のあるアスリートたちが自身の取り組みをSNSで紹介しています。「#HEROsPLEDGE」でご検索ください。

事業担当者からの声

猛暑や雪不足など、気候変動はスポーツの未来を脅かしています。その原因となるCO2を排出する「使い捨てプラ」への依存から脱却するため、スポーツ界の環境対策をムーブメントへ。皆様のご寄付は、未来の子どもたちが安心してスポーツを楽しめる環境を守り、スポーツ界を動かす取り組みに大切に活用させていただきます。



特定事業部 HEROsチーム 佐々木秀仁



本事業には、櫻井茂磨様の遺贈寄付を活用させていただきました。

- 実施団体名: (公財)日本財団
- 予算総額: 66,340,000円



里親への研修提供及び 社会的養護経験者の進学支援



トラウマの影響を受けた子どもは、その影響による行動が周囲から理解されず、不適切な対応を受けがちです。トラウマインフォームドケア(TIC)は、支援者がトラウマに関する知識や対応を身につけ「支援対象者にはトラウマがあるかもしれない」「困った人は、困っている人かもしれない」という視点で対応する支援の枠組みです。オンラインも活用しながら、全国の里親240人にTIC研修を実施します。

また、米国で開発されたフォスティング・ハイヤー・エデュケーション(FHE)プログラムを導入して、社会的養護を経験した高校3年生らの進学支援をします。専門職者とメンターによる伴走サポートにより、進学の障壁を包括的に解消します。「子どもたちの未来のために」と希望された水野久栄様の遺贈寄付を活用しています。

事業担当者からの声

社会的養護を経験した若者の高等教育への進学率は、一般の学生と比べて依然として低い状況にあり、また進学できたとしても、経済的事由や精神的な孤独など、様々な理由により中退率が高いです。みなさまからのご寄付により、社会的養護を経験した若者や彼らを支える里親さんへのご支援が実現しています。誠にありがとうございます。



公益事業部 子ども支援チーム 吐師朝美



本事業には、水野久栄様、H様の遺贈寄付を活用させていただきました。

- 実施団体名：(特) インターナショナル・フォスターケア・アライアンス
- 予算総額：5,129,742円





① フリースクールの建築(麦の子会)

8名の尊いご遺志が結実、フリースクールが開所

2023年度に皆様から託された「子どもの支援に活用してほしい」という尊い思いが、ひとつの大きな形となりました。亡くなられた北海道の男女6名を含む計7名の遺贈寄付、そして1名の相続財産からの寄付を合わせた計8名・総額約3億5,300万円の寄付金を活用し、札幌市内に新たなフリースクールが完成・開所いたしました。

この施設は、発達特性や虐待トラウマなどを持つ小学生を対象とした、木造2階建て(延べ約500平方メートル)の温もりある建物です。館内には、パニック症状が出た際にも安心して気持ちを落ち着かせられる専用の空間なども設けられ、最大100人程度の子どもたちを受け入れることができます。

寄付者が生前に願われた「子どもたちの未来を守りたい」という温かい思いは、これからの時代を生きる子どもたちの安心できる居場所として、地域の中に深く根づき、輝き続けています。



▶
むぎのこスクール外観



▲「遺贈寄付」で建築されたフリースクールの開所式でテープカットする関係者

② 全国各地で19回におよぶ遺贈セミナーを開催しました

地域でのさらなる広がり期待

首都圏や地方都市で計19回開催した遺贈セミナーは、新聞社連携の長野・神戸など各地で盛況となりました。例年通り佐山和弘行政書士をお迎えし、分かりやすい遺言書作成のノウハウから遺贈寄付への繋がりまでを丁寧に解説いただく有意義な機会となりました。一般の方や土業の皆様の関心も高く、今後の広がり大きな期待が持てる実りある機会となりました。



③ 「人生100年時代の社会貢献とWell-being」を開催しました

利他の心持ちで「人が人を助ける」共存の精神は、ボランティアや寄付という形になって表れます。人生100年時代において、アクティブシニアのボランティア活動と、人生の集大成の社会貢献としての遺贈寄付は、幸福感を得られ心豊かな社会を作る取り組みとして、より注目を集めています。

日本財団は日本財団ボランティアセンターと共催で“社会貢献とWell-beingとの関係性を紐解くイベント”を開催し、Well-beingに携わる脳科学者で東京大学特任教授の茂木健一郎氏と武蔵野大学ウェルビーイング学部長の前野隆司氏によるパネルディスカッションの後、「ボランティア」と「遺贈」をテーマにした講演に参加いただきました。参加された多くの皆様は人生を豊かにするヒントを見つけられたものと考えます。



④ 第10回「ゆいごん川柳」結果発表

第10回
YUIGON SENRYU

ゆいごん川柳
受賞作品発表

詳しくはこちらから

入選

愛しくて
何度かなぞる
文字の癖

白環灯 / 30代 / 東京都

入選

遺言書
備蓄されてた
親の愛

スミス / 50代 / 東京都

入選

AIに
代弁できない
父の愛(AI)

ガブリータ / 40代 / 東京都

大賞

ゆいごんに
風邪ひくなよと
書き足した

ろいまま / 50代 / 兵庫県

1月5日の「遺言の日」に向け開催された第10回ゆいごん川柳は、AIなど世相を反映した作品を含む17,469作品が全国から寄せられました。厳正な審査を経て、大賞や入選、信託銀行等の特別賞など計14作品が決定。遺言の大切さをユーモラスに伝える実りある機会となりました。

私たちについて

担当理事 相澤 佳余

ドネーション事業部 部長 木田 悟史

遺贈寄付サポートセンター事務局

チームリーダー 木下 園子

相談員 相良 浩
(五十音順) 佐藤 恵子
林 勝己
山崎 秋友
山田 信幸

顧問

弁護士 鈴木 大輔 氏

弁護士 樫尾 わかな 氏

弁護士 東 麗子 氏

(東京リベルテ法律事務所所属)

執筆協力

星野 哲 氏

(立教大学社会デザイン研究所研究員)

編集後記

最後までご覧いただき、誠にありがとうございました。
ご高尚のこととは存じますが、日本財団は国内最大規模の社会貢献団体であり、多岐分野に亘る社会課題解決に向け取り組んでおります。

とりわけ「遺贈寄付」はご自身で行き先を決めることによって、最後の社会貢献を実現させることが可能な仕組みです。この冊子が、皆様方の尊い思いをより具体的なものとして捉えていただく一助となれば、事務局一同、これほど嬉しいことはございません。

製作にあたりご協力いただいた寄付者の皆様、専門家の方々に心より感謝申し上げます。

今後とも皆様の尊い思いを未来へしっかりと繋げられるよう努めて参ります。

お問合せ先

0120-331-531 通話料無料

9:00~17:00(月~金/土日祝日を除く)

日本財団 遺贈寄付サポートセンター

〒107-8404 東京都港区赤坂1-2-2

<https://izo-kifu.jp/>



 **日本財団**
遺贈寄付
サポートセンター
THE NIPPON FOUNDATION
LEGACY GIFT SUPPORT CENTER